

大桑まさたか

さかえく せかい か
栄区から横浜を変える！

自由民主党

市会議員

5期目

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅で配っていきます！
栄区から、しがらみのない市政(政治)を実現します！

公約

現在を含め未来のために持続可能な横浜(社会)をつくる！



大都市制度について

横浜市は「特別自治市」という形の大都市制度を実現しようとしています。今回、ここでは横浜市が目指す大都市制度について書かせて頂きます。

今の横浜市は人口が多く、経済的にも他の市町村(自治体)より力があります。また、横浜市は大きな市ということで、市の職員も多くなっており、通常の市ではできない業務を現在もおこなっています。そのような中、横浜市としては、今後、人口減少や高齢化などを見すえ、これまで以上に業務を効果的に進め、予算を効率的に使っていく必要があると考えています。

たとえば、現在では幼稚園は神奈川県が受け持ち、保育園は横浜市が受け持っています。また、がけ地の保全や河川の管理などは規模によって神奈川県が受け持ったり、横浜市が受け持つことになっています。しかし、これを横浜市が一手に引き受けることができれば、総合的な子育て支援が可能になったり、がけ地や河川の総合的な対応が可能になり、事業を効果的に進めることができるようになります。

最後に、平成29年から横浜市内の小・中学校などの先生(教職員)などは所属が神奈川県から横浜市へ移り、権限や財源が横浜市に移ってきました。これは横浜市として、実際に効率的に予算を使い、効果的に事業を進められるよい事例だと感じています。これからも横浜市を持続可能な都市とするためにご理解を頂けるよう、お願いします。



特別号-11

Masataka
Okuwa
monthly newspaper
Special Issue 11

大桑新聞

【発行元】

自由民主党 横浜市会議員

大桑 正貴

〒247-0006 神奈川県横浜市栄区笠間2-20-7-102

TEL:045-892-5187 FAX:045-884-4917

E-mail:m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp

http://m-okuwa.net/

Profile

大桑 正貴

(おおくわまさたか)

昭和48年(1973年)7月4日生まれ横浜育ち 血液型A型

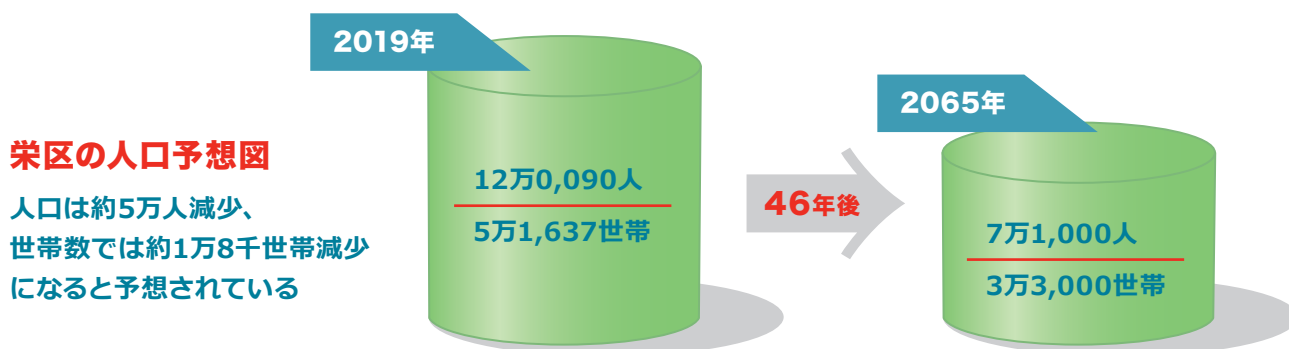
横浜市立小山台小学校入学
 大分県立大分舞鶴高校入学(1年次冬、転勤で横浜へ戻る)
 神奈川県立大岡高校卒業/神奈川大学法学部法律学科卒業
 平成14年(2002年)12月 アシスト株式会社 退職
 平成15年(2003年) 4月 横浜市会議員 初当選
 平成19年(2007年) 4月 横浜市会議員 2期目当選
 平成21年(2009年) 9月 明治大学 専門職大学院修了
 平成23年(2011年) 4月 横浜市会議員 3期目当選
 平成27年(2015年) 4月 横浜市会議員 4期目当選
 平成31年(2019年) 4月 横浜市会議員 5期目当選

栄区の現状と課題



2019年（令和元年）5月1日現在の栄区の人口は、**12万0,090人**。
世帯数は、**5万1,637世帯**となっています。しかし、横浜市の将来人口推計によると、2065（令和46）年には、栄区の人口は**約7万1千人（約5万人減少）**になるとされています。また、世帯数でいえば、**約3万3千世帯（約1万8千世帯減少）**になると予想されます。

次に、横浜市の人口（令和元年5月1日現在、374万7,967人）は2019年までは増加するとされていますが、その後は減少に転じると予想されています。この人口減少や世帯数の減少は、栄区や横浜市にとって大きな問題になると、私は考えています。



私が人口減少や世帯数の減少を問題だと考えるのは、人口が減少することにより、税収が減り、道路や水道、下水道を維持管理する財源が少なくなり、結果的に「まち」が維持できなくなる可能性が出てくるからです。たとえば、横浜市が保有する約2,500の公共施設も老朽化が進んでいますので、財源がなければ更新ができなくなる可能性が高まります。また、横浜市内の道路延長は約7,500km。水道は約9,000km。下水道は約11,000kmあります。

今の横浜市の税収だから、今の「まち」を何とか維持管理をすることができます。しかし、維持管理するための財源が減れば、道路や水道、下水道などを維持管理することはできなくなり、我々の生活に支障をきたすこととなります。

そして人口が減少することにより世帯数が減少すれば、空き地や空き家が増えることとなります。空き家が増えれば、治安も悪化するでしょう。そうなる前から、計画的にまちをコンパクトにまとめていかなければ（人が住むところと、それ以外のところの線引きをし直すなど）、栄区中に空き地や空き屋が点在することになり、「まち」の活力が失われてしまいます。家々が栄区内に点在することになれば、たとえば、バス路線も採算面などから撤退する可能性も出てくるでしょう。また、栄区内で営業している商店も今まで以上に営業を続けていくことが難しくなることは予想できます。

最後になりますが、これまでの横浜市（栄区）は、「まち」が広がっていく前提でまちづくりをしていました。しかし、これからの横浜市（栄区）は「まち」をどのように小さくしていくかが課題となります。もし、計画的に「まち」を小さくする（コンパクトにまとめる）ことができれば、今まで書いてきたような問題がおこってきません。これからのまちづくりのために、みなさんも栄区（横浜市）の課題を認識して頂ければ幸いです。